

琉球大学学術リポジトリ

性同一性障害対象者の男性から女性になりたい者と
女性から男性になりたい者の性格特徴の違い

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学 公開日: 2014-12-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 宮島, 英一, Miyajima, Eiichi メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/29977

(別紙様式第 7 号)

論文審査結果の要旨

報告番号	課程博 * 第 号 論文博	氏名	宮島 英一
論文審査委員	審査日	平成 26 年 11 月 5 日	
	主査教授	青石 瑞一 	
	副査教授	益崎 裕章 	
	副査教授	石田 肇 	
(論文題目)			
Differences in personality traits between male-to-female and female-to-male gender identity disorder subjects (性同一性障害の male-to-female と female-to-male の性格特徴の違い)			
(論文審査結果の要旨)			
<p>上記論文について、その研究に至る背景と目的、研究の内容、研究成果の意義と学術的水準について慎重に審査し、以下のような審査結果を得た。</p> <p>1. 研究の背景と目的</p> <p>性同一性障害 (GID : Gender Identity Disorder) は、自身の生物学的性に不快感を覚え反対の性を強く求めるが、男性から女性になりたい場合 (MtF : Male-to-Female) と女性から男性になりたい場合 (FtM : Female-to-Male) がある。従来報告より、MtF は併存精神疾患が高率で周囲の影響を受けやすい一方、FtM は性自認や性別適合に一貫した意志を持ち、両者には、精神症状、社会適応、生物学的治療の志向性で差異があることが指摘されている。</p> <p>気質・性格は人の認知・感情・行動に影響を与え、適応を決定する重要な因子である。GID の気質性格に関しては、スペインの先行研究で、クロニンジャーの気質性格検査 (TCI : Temperament Character Inventory) を用いた調査から、MtF は協調性が低く、自己超越性が高く、FtM は報酬依存が低い結果が得られている。しかし、個人の気質・性格には人種や文化的な影響が大きいため、本邦における GID の気質性格調査を行い、臨床に還元する必要がある。本研究では日本の GID 患者を対象とし、MtF と FtM の気質性格の違いを GID ではない男女を対照群として比較検討した。</p> <p>2. 研究の内容</p> <p>対照は、GID 群である MtF 72 名と FtM 187 名と、対照群である男性 184 名と女性 159 名であり、気質・性格の評価は自己記入式の TCI の短縮版 (125 項目、4 件法) を用いた。グループ間の統計学的な比較は、二元配置分散分析で行った。</p> <p>その結果、FtM は新奇性追求が男性、MtF より低一方で、報酬依存が男性より高く、協調性も男性、MtF より高かった。MtF は全群の中で最も自己超越性が高かった。GID の生物学的治療 (ホルモン療法および手術療法) の有無と GID の亜型 (MtF/FtM) の気質性格に与える交互作用を検討したところ、MtF 群で治療群が未治療群よりも持続性が高く、未治療群で</p>			

FtM が MtF より持続性が高かった。

FtM では、新奇性追求の低さから保守的構えを有するが、高い報酬依存と協調性により目的志向性に他者と協力する資質は高く、治療への強い動機付けや協力的姿勢に関与すると考えられた。MtF の自己超越性の高さは、自己像の不鮮明さや現実逃避型不適応との関連が示唆され、MtF への対応には一定の留意が必要と考えられた。

3. 研究成果の意義と学術的水準

本研究により日本人の MtF と FtM の気質性格特性の違いが明らかになった。研究結果より、新奇性追求が低く、報酬依存、協調性、持続性の高い FtM は、性志向に合わせた生物学的治療を着実に進める治療方針が望ましく、自己超越性が高く持続性に劣る MtF は、自己像の安定化や併存精神症状の緩和を図り、生物学的治療を行う前に脆弱な性格や社会適応に焦点を当てた支持的関与が必要と考えられた。

本研究は、日本人における GID の亜型別の気質性格特性の違いを明らかにし、その差異に配慮した治療対応を示唆するとともに、欧米の先行研究との結果の違いから GID 特性に人種・文化差が存在する可能性についても言及しており、GID 臨床に還元しうる新たな視点をもたらす国際的水準の研究であると判断された。

- 備考
- 1 用紙の規格は、A4とし縦にして左横書きとすること。
 - 2 要旨は800字～1200字以内にまとめること。
 - 3 *印は記入しないこと。

(別紙様式第 11 号)

学 力 確 認 結 果 の 要 旨

報 告 番 号	* 論 文 博 第 号	氏 名	宮 島 英 一
論 文 審 査 委 員	審 査 日	平 成 26 年 11 月 5 日	
	主 査 教 授	青 木 陽 一	印
	副 査 教 授	益 崎 裕 章	印
	副 査 教 授	石 田 肇	印
(学 力 確 認 結 果 の 要 旨)			
学 力 確 認 は、口 頭 に よ る 公 開 討 論 に よ っ て 行 い、以 下 の 点 に つ い て 確 認 し た。			
1. 提 出 論 文 の 内 容、意 義 に つ い て 十 分 に 把 握 し て い る こ と。			
2. 研 究 の 目 的 と 方 法 に つ い て 熟 知 し、習 得 し て い る こ と。			
3. 研 究 結 果 に つ い て 正 し く 解 析 し、理 解 し て い る こ と。			
4. 国 内 外 の 関 連 す る 研 究 の 現 状 を 把 握 し、文 献 報 告 に つ い て も 理 解 し て い る こ と。			
5. 研 究 結 果 の 展 望 に つ い て 確 か な 見 解 を 有 し て い る こ と。			
<p>以 上 の こ と に つ い て 質 問 に 対 す る 回 答 は 十 分 に 満 足 の い く も の で あり、研 究 の 目 的 と 方 法 に 関 す る 知 識 は 十 分 か つ 正 確 で、結 果 に つ い て の 解 析 も 正 し く、ま た 関 連 す る 研 究 の 現 状 認 識 と 本 研 究 の 位 置 付 け に つ い て も 十 分 に 把 握 さ れ て い た。さ ら に、本 研 究 の 応 用 と 将 来 へ の 展 望 に つ い て も 優 れ た 構 想 を 有 し て い る も の と 判 断 さ れ た。</p> <p>よ っ て、大 学 院 博 士 課 程 を 修 了 と 同 等 の 学 力 を 有 す る と 判 定 し た。</p>			

備 考 1 用 紙 の 規 格 は、A 4 と し 縦 に し て 左 横 書 と す る こ と。

2 * 印 は 記 入 し な い こ と。